

【日 時】平成28年11月11日(金) 12:15～14:00

【場 所】岡山市学童保育「うのクラブ／学童プレハブ-6℃作戦」

(岡山市立宇野小学校内)

【取材先】

岡山県学童保育連絡協議会 会長 糸山 智栄 氏(元宇野小学校保護者)

うのクラブ学童指導員(公益財団法人YMCAせとうち)

山口 一起 氏、廣友香菜子 氏

岡山県中小企業家同友会 環境委員長 有松 修一 氏、浅野 浩一 氏

(株式会社サンキョウ-エンビックス)



【主なご意見など】

◆岡山市の学童保育について、うのクラブについて

⇒岡山市の学童保育の大多数は、共同運営である「運営委員会方式」をとっており、うのクラブも同様「公益財団法人YMCAせとうち」が運営委員会と共同運営している。全校生徒約900名のうち、親が就労している小1～6の200名前後が在籍している。夏の暑さ、冬の寒さが厳しいプレハブの建物を改善すべく、運営者、保護者、地域コミュニティ、環境NPO、地元中小企業がグループを結成し、環境にやさしくローコストで、効果の上がる方法を考え、実践。低炭素杯2016審査員特別賞を受賞した。

◆学童保育における環境に関する取組みについて

⇒指導員も日々の業務に追われて、なかなか声掛けができなかったり、忘れてしまうことも多かった。

どのようにしたら指導員が意識を持ち続けることができるか。日々の生活の中でどのようにしたら環境の要素を一言、ふた言付け足すことができるかは課題。プログラムを実施する時間を区切ってやるという形にした方がいいのかもしれない。その方が、適切な声掛けをしたりできるということも考えられる。

⇒毎日継続できること、という視点から考えれば、毎日の健康観察時にあわせてできることが良いかもしれない。暑いね、寒いねなどと絡めて毎日の生活に「織り込む」くらいの勢いでやると良いだろう。

⇒長期の休みや土曜日等、まとまった時間が取れる、人数が落ち着くところを利用して良いのでは。

⇒保護者を巻き込んで実践するのも良いかもしれない。



写真：うのクラブ外観
(緑のカーテンネット・左に雨水タンク)



写真：屋根裏と室内の温度計を指さす
学童保育指導員の山口氏